

脳と心

■昭和の定番CM―おくり編―

若い世代を中心に起きている昭和レトロブームは、いつ頃から始まったのでしょうか？ 個人的には映画「ALWAYS 三丁目の夕日」(2005年公開)頃とと思っていますが、ある識者によるとそれ以前(1980年代や90年代)にもそれ以降(2010年代)にもブームはあり、昭和レトロは繰り返しているようです。昔なつかしいグッツやインテリアだけでなく、昭和の時代には市販薬の定番CMが数多くありました。「ゴホン!」といえば龍角散「くしゃみ3回、ルル3錠」「せき・こえ・のどに浅田館」など、特に風邪薬のCMには印象的なフレーズが多かった気がします。市販薬のネーミングには面白い由来があります。例えばムヒ(虫刺され、かゆみ止め)は「比べるものがない



昭和といえば
クリームソーダ

ほどすぐれた効き目/天下無比」という意味が込められており、ノーシン(頭痛薬)は「脳がシーンとする/脳が新しくなったようにすっきりする」という語源だそうです(諸説あり)。いずれにしてもインパクトのあるフレーズと覚えやすいCMソングのリフレイン効果は抜群で、何十年たっても覚えているほど記憶に刷り込まれているのですね。

■脳心血管病と健康寿命

ノーシンといえば脳卒中と心臓病はどちらも血管の病気であり(脳心血管病)、両者の間には密接な関係があります。脳卒中(脳血管疾患の総称)とは脳の血管が閉塞または出血する病気であり、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の3つに大別されます(図1)。脳卒中の約3分の2を占めるのが脳梗塞ですが、脳梗塞の3タイプのうち最も重症で死亡率も高いのが心原性脳梗塞です(図2)。この心原性脳梗塞の原因の75%は心房細動(心拍、脈拍のリズムが不規則になる不整脈)であるため、心房細動の早期発見と治療は脳卒中予防につながります。

このため国は2018年に「脳卒中・循環器病対策基本法」を成立させ、栃木県では2022年に

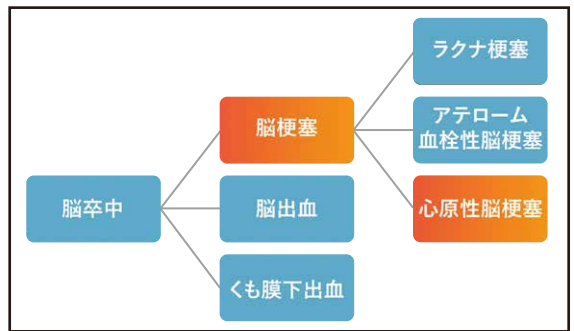


図1 脳卒中の分類

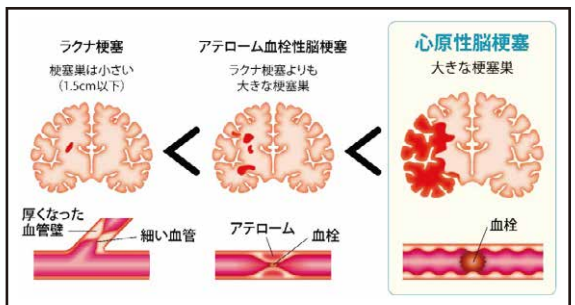


図2 脳梗塞のタイプ (出典: J & J)

自治医大と獨協医大に「脳卒中・心臓病等総合支援センター」が設置され、地域全体の患者支援体制の充実が図られています。脳卒中と心臓病を合わせると栃木県民の死亡原因の24・5%を占めており(がん全体とほぼ同じ/2021年人口動態調査)、要介護5(寝たきり状態)の原因としては最大(認知症より多い)であるため、健康寿命の延伸のためにはノーシン(脳心血管病)対策が大変重要となります。

■レトロブームの背後にあるもの

レトロとはレトロスペクティブ(回想)の略語であり、懐古趣味を意味します。私のような中高年世代にとっては古き良き時代をなつかしむ単なるノスタルジーにす

大きな経済効果を生んでいるようですが、それが「今よりもシンプルで生きやすかった時代へのあこがれ」とか「現代の重苦しい閉塞感の反映」などと言われると、年長者としてはとても複雑な思いであり、若い人たちに申し訳ないような気持ち(こんな世の中にしてゴメンね)になってしまうのです。



沼尾 利郎
ぬまおとしお

日光市生まれ。宇都宮高校、獨協医大卒業後、米留学を経て塩谷総合病院副院長、国立病院機構宇都宮病院院長を歴任。現在は同病院名誉院長として宇都宮セントラルクリニック等で診療。専門は呼吸器、アレルギー、スポーツ医学など。

皆様の感想や先生に書いてほしい話等ございましたら事務局までご連絡ください。

